



せき
咳がひどい
新型コロナウイルスや風邪、
気になる感染症のはなし

JA とりで総合医療センター

小児科 部長 太田 哲也

司会者：現在新型コロナウイルス感染症が流行しています。その症状として発熱や咳の症状があります。咳エチケットやマスクの使用などが推奨されています。今回は咳がひどくなる病気について、小児科医師から話を聞くこととなりました。

咳がでる病気にはどんなものがありますか？

太田：もともとコロナウイルスはいわゆる風邪の原因ウイルスで、毎年流行しているものです。しかし変異を起こし、今まで2002年にSARS（サーズ）、2012年にMERS（マーズ）といった重い肺炎を起こしたことがあります。幸いにもSARSは中国、MERSはアラブのみの流行で世界的にはそれほど大きな問題にはなりませんでしたが、今回の新型コロナウイルスは、全世界に広がってしまいました。コロナウイルスはもともと風邪の原因ですから、症状だけでは風邪か新型コロナかどうかはわかりません。特徴的な味がわからないなどの症状はありますが、基本的には風邪症状です。

司会者：では新型コロナウイルスも風邪の一種と考えてよいのでしょうか？

太田：いいえ、新型コロナウイルスはSARSやMERSと同様に重症化や致死率が高いことが問題です。SARSは致死率10%、MERSは30%、それに対して新型コロナウイルスは数%と低いのですが、しかし風邪での死亡率はほぼありませんので、流行がひろがれば大変なことになります。自分が大丈夫であればよい、という考え方ではなく、高齢者や基礎疾患のある方がかかると死亡率も高くなりますので、ひろげない、という考えかたが大事だと思います。もちろん若い方でも重症化する方はいらっしゃいます。

司会者：新型コロナウイルスの拡大防止はしっかりとやっていく必要があるというわけなのですね。それでは、風邪の原因には他にどんなものがあるのでしょうか？

太田：風邪とは何か、というと鼻から喉にかけてのいわゆる気道に当たる部位の急性の

炎症をさします。その原因は80～90%がウイルスで、ライノウイルス、コロナウイルスが多くみられています。それ以外にも細菌やマイコプラズマなどが原因となることがあります。現在ライノウイルスやコロナウイルスを検査で診断することができませんので、風邪といわれています。風邪を引き起こすウイルスに対する薬はありませんので、安静に過ごして十分な水分と栄養をとることで治癒をめざします。

司会者：では風邪症状のときは特に薬はないのでしょうか？

太田：確かに咳や鼻水などの症状を楽にする薬はありますが、原因ウイルスを倒すような薬はありません。ただ、原因が細菌やマイコプラズマであれば、抗生剤が有効です。

司会者：細菌やマイコプラズマが原因であることは少ないのでしょうか？

太田：数は多くはないのですが、それらが原因であるときには適切な抗生剤を使用すれば早期に改善できます。

司会者：では早めに抗生剤を使用すれば、早く治りますね。

太田：そうではありません。先程も申しましたように、細菌やマイコプラズマである可能性は少なく、ほとんどの風邪の原因は、抗生剤が無効なウイルス性です。抗生剤は細菌を倒す薬ですが、病原菌だけでなく、体にいる善玉菌も倒してしまいます。善玉菌が減少することによりかえって体調を崩しやすくなることがあります。また薬剤耐性菌が出てきやすくなりますので、正しい診断によって、適切な薬を使うことが大切です。

司会者：早めに抗生剤を飲めばよいというわけではないのですね。わかりました。薬剤耐性菌とはどのような細菌なのでしょう？

太田：細菌は色々変異を起こします。様々な変異をしていく中でいろんな形の菌が同居していますが、抗生剤が投与されたときに、抗生剤が効く菌のみが倒されてしまい、効かない菌のみが生き残ります。そしてその生き残った菌が増殖し、体には薬が効かない菌が中心となって増えていく。それが薬剤耐性のメカニズムです。世界的に問題となっていますが、日本でも2016年に薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン2016-2020が取りまとめられました。

司会者：風邪症状のときに、どのような病気に気をつけるとよいのでしょうか？

太田：子ども、特に学童に多いものとしてマイコプラズマがあります。乳幼児や大人にも感染します。これは肺炎を起こしやすく、肺炎の10～20%を占めるといわれています。発熱、空咳、肺炎など新型コロナウイルスに似ています。のどから綿棒でぬぐいとる検査や、血液検査、レントゲンで診断をしていきます。診断ができればマクロライド系の抗生

剤などが有効です。ただマイコプラズマも薬剤耐性菌ができていますので、注意が必要です。

司会者：他にはどのような病気がありますか？

太 田：昨年全国的に大流行をしたものとして百日咳があります。当院でも数多くの百日咳の患者が受診されました。

司会者：百日咳は予防接種が行われていると思いますが。

太 田：百日咳は現在4種混合ワクチンの中に入っています。しかし、このワクチンは0歳で3回、1歳で1回にて終了してしまいます。小学校4年生で行う2種混合ワクチンには含まれていませんので、この時期には免疫がなくなっています。百日咳は小学校高学年以上特に大人を中心に流行しています。

司会者：百日咳にかかったという人をほとんど聞いたことがないのですが。

太 田：百日咳は発熱がなく、日中はそれほど咳が強くないのですが、夜間にひどくなる特徴があります。本人はつらいのですが、外からみるとそれほどつらくはみえないところがあります。疑わなければ検査もしませんので、診断もできなくなります。実際の患者数は相当多いと考えられています。検査は鼻からのPCR検査や血液検査があります。

司会者：それほど問題になっていないということは、それほど気にしなくて良い病気なのでしょうか？

太 田：確かに百日咳というくらいですので、100日、3ヶ月で改善します。ただ、その間咳はひどくつらい思いをします。またワクチンができる前の乳児がかかると重症化しますので、やはり診断と治療は必要な病気だと思います。

司会者：やはり咳というと感染症が原因なのですね。

太 田：いえ、それだけではなく、大人であれば癌であったり、膠原病であったりします。またアレルギーが原因で起こる咳喘息やアレルギー性鼻炎に伴う咳のような病気もあり、それぞれに応じた治療が必要となります。

司会者：現在新型コロナウイルス感染が怖くて、受診控えなどが起こっていますが、やはり原因を確かめ、適切な治療を受けることが大切なのですね。

太 田：はい。病院でも感染防止対策を十分に行っています。また感染症以外の病気は感染防止対策を行っていても起こります。マスクや手指消毒などの感染防止対策を十分に行った上で、健康に問題がある場合には病院にかかっていただき、診断・治療を受けることがやはり大切であると考えています。

司会者：どうもありがとうございました。新型コロナウイルスの予防を心がけながら、適切な医療機関受診も考えていく必要性がよくわかりました。

太 田：病気は待ってくれませんので、病院としても感染対策を行いながら、適切な医療を提供できるよう心がけていきたいと考えています。

令和3年1月19日（火）、27日（水）放送

